

令和 6 年度第 2 回 寝屋川市男女共同参画審議会 議事要旨	
日時：令和 6 年 8 月 23 日(金)午前 10 時～12 時	場所：男女共同参画推進センター (ふらっと ねやがわ)
出席委員：大束委員長、濱田委員、加来委員、川口委員、岸本委員、 下田委員、蔵本委員、鈴木委員、計 8 名 欠席委員：藤田副委員長、森川委員、坂口委員、横藤田委員、百井委員	
事務局（担当課）：危機管理部 人権・男女共同参画課	傍聴：0 人
1. 「第 5 期ねやがわ男女共同参画プラン」について グループ討議で審議 審議内容：課題 4 .仕事と生活の調和の実現 (1)仕事と子育ての両立支援 (2)仕事と介護の両立支援 (3)男性の家事・子育て・介護等への参加促進 【A グループ】（大束委員長、加来委員、下田委員、岸本委員） ①課題 4 .仕事と生活の調和の実現 (1)仕事と子育ての両立支援 主な意見 ・改善目標について、保育士確保の具体的な施策は何か。 ・留守家庭児童会に入会している人にアンケートを行ってはどうか。 ・アンケートを行った結果は集計しているのか。 ・オンライン面談の相談数は何人/何件実施しているのか。 ・定点ではない推移を表示してもらいたい。 ・供給体制の確保として具体的にどのような方法を想定しているのか。 ・ファミリーサポートセンター事業を活用する人数及び回数は増えているのか。 ・国や府からのリーフレットの配布だけで十分か、法改正など説明も十分に行っているのか。 ・情報提供の拡大としての具体的方法とは何か。 ・任意団体で商工会議所等を活用した情報発信の強化を行う。 行動計画の障壁を認識しているのか。 ・評価の根拠（到達度の設定） ・男性育休の期間は平均どの程度か。 ・育休者に対する正規職員配置は本当に実行できているのか。 ・リーフレットの配架だけで事業所の男性育休に繋がるのか。 ②課題 4 .仕事と生活の調和の実現 (2)仕事と介護の両立支援 主な意見 ・在籍期間の長い職員への処遇改善とあるが、人手不足ではないのか。 具体的な対策や改善策はあるのか。 ・センターの資質向上のための具体的方法とは何か。 ・地域包括支援センターに高齢者やボランティアが必要ではないのか。 ・職員の定着 ・評価の根拠 ・男性介護者の人数や、どのくらい介護しているか等、明らかにする必要がある。 ・ホームページの活用が資源活用に繋がるか。 ・男性介護者交流会は今年度（R06 年度）行っていないのか。 ・男性介護者は市内に何名いるか。 ・男性介護者交流会を包括支援センター毎に行ってはどうか。 ・対面で行うことにニーズはあるのか。 ・男性介護者は介護認定を受けるのも躊躇する人が多いため、寄り添いながら支援を行い	

介護認定を促す必要がある。

- ・ 交流会の参加満足度、参加経路や動機を調べ改善へ活かすべきである。
- ・ ソーシャルワーカーとの連携はうまくいっているのか。

③課題 4.仕事と生活の調和の実現

(3)男性の家事・子育て・介護等への参加促進

主な意見

- ・ 企業側の理解を促しつつ、アプリ教室事業を両立して進める必要がある。
- ・ アプリの登録者数をもっと増やすように PR する。
- ・ 父親コミュニティーを形成し、参加促進を促す。
- ・ オンライン講座を増やすべきである。
- 働く世代の男性、女性も土日が休みとは限らないため。
- ・ 多胎児の家庭交流会は、パパママに限らず、祖父母や叔父叔母など人数に余裕があれば広げてよいのではないか。
- ・ 夫婦で参加されたケースには、それぞれのきっかけや次に期待することなどヒアリングし、改善に活かす。
- ・ 夫婦で参加することの意義必要性の訴求。
- ・ 家事が手際よく簡単にできるメニュー紹介教室などを実施してはどうか。
- ・ 男性が参加したい講座などアンケートを取ればよいのではないか。
- ・ 各種団体への支援とは何か。
- ・ パンや漬物、そば打ちをして家事活動に繋がるのか。実施団体に考えてもらうべきである。
- ・ 人気のある講座を増やすだけで男性の参加に繋がるのか。
- ・ 特定の場所での取組、コミュニティーセンター規模で開催できないか。
- ・ ターゲット層は？
- ・ 将来パパが仲間づくりできるための教育を行うべきではないのか。

【B グループ】（濱田委員、川口委員、蔵本委員、鈴木委員）

①課題 4.仕事と生活の調和の実現

(1)仕事と子育ての両立支援

主な意見

- ・ 男女共同参画の視点があるのか。
- ・ 待機児童数 0 人の継続とともに、次の課題として、保育士の人材確保や賃金・待遇改善、仕事の時間のシェアが必要ではないのか。
- ・ 待機児童 0 人と記載されているが、保護者が希望する保育園に入れていないではないのか。
- ・ 留守家庭児童会は希望者全員が入れているのか。
- ・ 留守家庭児童会の指導者不足が慢性化しているため、保育環境の改善が必要ではないのか。
- ・ 学童の充実（人材、設備老朽化の点）
- ・ 孤立化しないように地域・行政での相談体制の確保をするべき。
- ・ 子育てリフレッシュ館の HP やインスタは必要としている層をピンポイントに把握できるため良い
- ・ 一時預かり事業の周知は、口コミが多いためか市民の目に付きにくい。
- ・ 年度目標が利用者のアンケート結果を活かす目標になっていない。
- ・ アンケートの集計の結果、多い声を反映できているのか。
- ・ リーフレットの配架では同じ結果になるのでは。
- ・ 配架では目に付きにくいいため、加入事業所へ定期的に、メールで発信を行えばよいのではないか。
- ・ 目標について、寝屋川市と国と他市と違いを数値化するのはどうか。
- ・ 男性育休は当たり前であると広報に掲載する。
- ・ 男性育休で分割しての取得は可能であるのか。
- ・ 男性育休を取る本人だけでなく、周りの理解が必要である。

②課題 4.仕事と生活の調和の実現

(2)仕事と介護の両立支援

主な意見

- ・ 包括支援センターの職員数は決まっているため、相談が増えても対応に困るのではないかな。
- ・ 相談が適切に行えるように記載されているが、現状何が問題であるのか。
- ・ 包括支援センターは主に口コミで知ることが多い。
- ・ 包括支援センターは各中学校区にあるが、校区を超えてのセミナー等の参加ができることを周知するべき。
- ・ 地域包括支援センター職員の所得を上げる。
- ・ 地域包括支援センターに入りにくい、入りやすい環境づくり。
- ・ 在籍期間の長いと記載しているが、男女共同参画との関連性はあるのか。
- ・ 高齢介護室と社会福祉協議会のホームページを充実させる。
- ・ 男性介護者交流会の参加が4人で全体でも9人は少ないと思うが、周知は今後どう行うのか。
- ・ 育休は注目されつつあるが介護休暇について話題に上がることがないため、もっと世間に知ってもらう機会を設けるべきではないか。
- ・ 男性介護者交流会と、介護交流会との連携は図るべき。

③課題 4.仕事と生活の調和の実現

(3)男性の家事・子育て・介護等への参加促進

主な意見

- ・ ねや CoCo アプリの男性の登録者数を増やすためにはどうするべきか。
- ・ 父親の参加促進で「開催方法の工夫」とは具体的に何か。
- ・ 日程の工夫はどうなっているのか。時間を工夫するべき。
- ・ ねや CoCo アプリの活用、若い人向けに SNS の利用をするべき。
- ・ 広報の周知、事業所にチラシなど掲示すればどうか。
- ・ パパママ混合の交流会、パパの交流会の両方あるとよいだろう。
- ・ パパを主役にした企画「クッキングパパ」など開催する。
- ・ マタニティイベントなどで育児休暇を実際にとっている方の話を聞く機会を増やしていく。
- ・ 指定管理者主催の講座推進のため、地域のコミュニティーセンターでの開催を検討してはどうか。
- ・ パン、漬物よりも冷蔵庫の残り物で作れるスキルをパパ向けに行ってはどうか。
- ・ 料理だけではなく、他の家事についても（特に男性）セミナーを開催する。
- ・ 子ども連れで参加できるパパイベントにすれば、その間母親が自分の時間を取ることができるのではないかな。
- ・ 大人の健康料理教室は女性の方が多い。
- ・ パンや魚料理もよいが、男性の家事や育児体験者の成功例の発信をするべき。

<まとめ>

【A グループ】発表項目→(1)仕事と子育ての両立支援

本来であれば通し番号順にするべきところだが、1点共通項があり、主に疑問や知りたいことをレイヤー分けした。知りたいことの定量性というか、具体的でまだ落とし込まれてないことで、数字推移が追えるような形にしないといけない。情報提供、具体的にはどうするのか内容まで踏み込まないと、次に評価する際にPDCが見込めないということで知りたいところの話が出た。

提案のところも増えいますが、例えば情報提供のところ、本来であれば事業者に関わるような機関に勤めてる方や任意団体など寝屋川市にはたくさんあるため、連携を図ることができると考えられる。

また例えばもう少し踏み込み、実際に利用されてる方の満足度調査としてアンケートを行い、細かい評価項目を設けて取ればよいではないかという提唱があった。そのために環境や雰囲気作りが必要な組織体を整備しなければならない。

常日頃から職場作りとしても助け合いの環境が必要ではないか。

疑問ですが、男性育休の話は結構話題として上がっている中、リーフレットの配布だけで男性育休が推進されるのか。

実際に育休者に対して正職員の再配置は、本当に実現できるかどうか。評価や検証みたいなところ

るも疑問である。

個別に気になった評価項目の取り組み実績で、例えば 23 番を見ると、箇条書きで実績や感想というのが書かれてる中で、他の項目が定性的なような記載の仕方があり、根拠がわからず、各部署によって異なると思うが、23 番に関してはインパクトがある。

【B グループ】発表項目→(1)仕事と子育ての両立支援

学童保育について、23 番は待機児童 0 に対しての評価はできるのではないかという意見が出た。

しかし実際に預ける場所が、本人が希望する場所であるのか。預けることはできても、実は通勤は真逆の方向となれば、それは満足度としてはどうなのかという意見がある。

また男女参画を考えた時に、まだまだ保育士の数が全体的に足りないのではないか。そこを補充していくことによって、待機児童 0 かつ人材確保で環境を整えることが、実際に進むのではないか。

25 番の情報提供の方法について、両方とも B 評価であるが、このアンケートの結果だけで実際の答えがどのくらい反映されてるのか疑問がある。

その結果に対して何か対応策をしなければ、このまま同じ評価のまま変わらないのではないかなという結論となった。

男性の育休について、まだまだ知らない人が多く、取りにくい環境になっている。もっと、男性が育休を取れる雰囲気作りをするべきである。

個人的に聞いた話だが、育休を取ったところで育児ができないという男性が多いため、それなら仕事に行ってる方が自分に合うという男性も居たため、そういう男性の育児についても取り組む必要があるのではないか。

【A グループ】発表項目→(2)仕事と介護の両立支援

周知徹底について、ほとんどの公共施設が働きかけていると思いますが、地域包括支援センターもできた当初から、ビラを配布したりしていた。徐々に高齢者以外のことも連携を取っている。連携については、自治会とか老人会もある。

総合窓口もあり、12 校区とも出張も行っている。ただボランティアの数が減少している問題がある。今後、地域包括支援センターが重要な存在になると考えると、改善が必要である。

相談員は現在 5 人であるが、後 1 人 2 人増やすことで、より細かな相談を行うことが可能になるのではないか。人数が少ないところで、質の向上や研修をすると考えると処遇改善が必要である。

男性の介護者交流会について、年 4 回実施するとなっているが、地域規模では絶対に人が集まらない。それを踏まえると地域包括支援センター規模で実施し、集まるようにするべきではないか。しかし地域包括支援センターの男性の利用率が少ない。特に介護認定を受けることを躊躇している人が多い。何度か確認してようやく受けられる方もいることから、寄り添うことが必要である。

提案としては、年 4 回を全て対面で行うのではなくオンラインで実施するなど様々な形で取り組むことが必要ではないかと思う。

一番問題であるのが、市内で何人男性介護者がいるかを把握していないことである。

【B グループ】発表項目→(2)仕事と介護の両立支援

地域包括支援センターについて、まず知らない人は何を実施しているところであるかわからない。実際に介護に困ってから、ここへ行けば相談やケアマネジャーを紹介してもらえるとわかった人も多く、地域包括支援センターのホームページ等がわからない。口コミに頼らず、広報や掲示物でもっと広めてはどうか。

実際に行っても、小さな看板しか出ていないため、入りにくく躊躇してしまうのではないか。

また地域包括支援センターでは、様々なセミナーを開催しているが、それは校区の中での周知に留まっている。他の校区の方も参加できるセミナーでも周知されておらず、届いていないことが問題である。

地域包括支援センターの相談について、配置の職員の数が決まっている中、相談が増加し対応に困っているのではという意見が出ました。知っている地域包括支援センターはそのような問題はなかったように感じた。割と待機しており、相談体制が整っていた。

包括制度の処遇改善、地域包括支援センター職員の所得を上げる必要があるのではないか。

28 番の男性介護者について、当初は男性で困っている方が集まって話す場所の提供としていたが、交流会開始から年月が経っているため、男性介護者に限定せず、男性介護者交流会プラス介護者交流会を広めた方が良いのではないか。そうすれば女性の立場からの知恵も得られるので

はないか。

男性介護者に限らず女性介護者についても、孤立防止のために、地域との繋がりを作るべきである。もっと連携を行い、ホームページで周知することで広げられるのではないか。そもそも介護者交流会 4 回で延べ 9 人では少ないのではないか。これも周知が問題である。

【A グループ】発表項目→(3)男性の家事・子育て・介護等への参加促進

31 番について、男性参加者を目的としている話だったが、改善として再編成の中で、人気のある講座の回数を増やす。

パン講座のような内容ではなく、男性の参加しやすい講座を考えるべきではないか。

またアンケートを取るようにする。また講座の内容としては、家事が手際よく簡単にできるようなものを示せばよいのではないか。

また 31 番には、各種団体の支援を行うとの記載があるが、その後の改善点としては出てこない。もしあるとすれば、男性の育児支援や家事参加の支援とかをやったらどうかと提言が出た。あと場所としてコミュニティーセンター規模で実施する、あるいはオンライン講座を行ってみるなど男性が参加しやすくする、女性も土日が休みとも限らないことから、オンラインは参加者も増えるので実施するべきではないか。

育児の支援について、母親は自然と仲間作りができるいろいろな取り組みがあるが、父親は自然と仲間作りがなかなかできにくい。そうした中、将来パパの仲間作りができるための教育とかコミュニティーを作り促進すればよいではないか。

また夫婦で参加ということが結構書いてあるが、今必要なことをするべきではないか。

特に 31 番は、幅広い世代の参加促進を図るため、メニューの拡充等必要がある。となっているがターゲットとする年齢層がどのくらいであるのかという意見が多い。

家庭支援ではママとパパに限らず、祖父母や叔父叔母も人数に余裕があればターゲットにしてもよいのではないか。

全てに対してお父さんやパパは前提になっているが、これから様々な家族の形が出てくる中で、シングルであったり、例えばヨーロッパのような同性婚であったりする中で、ターゲットを考えるべきではないかという意見が出た。

【B グループ】発表項目→(3)男性の家事・子育て・介護等への参加促進

ねや CoCo アプリと広報について、どれぐらいの男性が登録しているのか。登録数を増やすにはどうしたらよいか。

母親だけではなく、夫婦で登録するような工夫があると、増えるのではないか。

事業所等にチラシを配布し、掲示もすれば良いのではないか。またホームページだけではなく、電車の広告など高齢者の方が見ていることが多いという情報から、効果があるのではないか。

イベント等たくさん実施していると思うが、日程の設定についてはどうしているのか。参加しにくいパターンであったり、また土日にした方が、夫婦で参加しやすいため、工夫が必要である。

イベントに参加者を増やすことについては、パパが来るということはママのサポートになるため、子どもとセットでイベントに参加するきっかけを作るか、パンや漬物もよいが、普段の家事スキルにすべきである。冷蔵庫にあるもので料理する、料理以外でも洗濯など他の家事でもよい。

やはりパン作りや料理教室だけではなく、男性の家事や育児体験者の成功例等の体験者が語るような会議をやれば参加者が増えるのではないか。

また、教室等は入りにくいパパもいると考えられるので、タイトル等を男性の主役にした例えば親父のファンの会とか、或いはパパの会とかにすればよいのではないか。そこにママも参加できますという方が全体的に参加しやすくなるのではないか。

男性の父親の参加の促進の開催方法が記載されているが、具体的にどのようなものであるのか。

3. 「その他」

連絡事項